

糸井神社

いといじんじゃ

約千年前の「延喜式」という書物にも記されている式内社で、由緒ある神社です。

名称のとおり糸に関係がある神社であることは確かで、祭神は同社縁起に記されている豊鍬入姫命(とよきいりびめのみこと)です。一説には綾羽・呉羽の両神も祭られており、織物技術に関連した氏族が開拓した土地に殖産工業の神を祭ったものと思われる。

本殿は春日大社の若宮本殿から移建されたと言われ、江戸時代の遺構とされています。拝殿に掲げられている絵馬も見どころ。

また、神社には観阿弥が日参して、能の公演の成功を祈願したという言い伝えがあります



秋祭り

糸井神社の秋祭りは、毎年10月の第4日曜に本祭、その前日に宵宮祭が行なわれます。頭屋は地元の5垣内に1人ずついて、御幣と御酒、稲束をつけた柳を担い、「お渡り」が執り行われます。宵宮には夜店なども出店され、にぎやかな雰囲気の中、神事が行なわれます。また10月第2土曜には神事とともに、それぞれの垣内で「子ども相撲」が行なわれます。



子出来おんだ

奈良県無形民俗文化財

こできおんだ

平安時代から伝わる

ユニークなお祭り

毎年2月11日の夜に、六県神社で昔から伝わるユニークな御田植祭「子出来おんだ祭」が行われます。厄年の男が腹に小太鼓を入れて扮した妊婦が、田植えをしている夫(神主)のもとへ弁当を持っていくと、産気づいてしまい、畦道で男子を出産、夫は妻の腹から放り出された太鼓をたたいて喜ぶという、夫婦愛・農耕勤勉を表現した特異なお祭りです。



比売久波神社

ひめくわじんじゃ

島の山古墳の西側に接し、糸井神社と同じく、「延喜式」に記録されている式内社です。

祭神は、久波御魂神(くわみたまのかみ)と天八千千(あまはちち)姫で織物に関連しています。また、古くは桑の葉をご神体としていたことから、桑の葉を用いた養蚕に関連する神社であることが推測されます。

本殿は県指定の文化財。



時を超えて受け継がれるもの

神社・祭り